

3 コメ

(1) 国際的なコメ需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2020/21 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・インド等で上方修正も、タイ等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

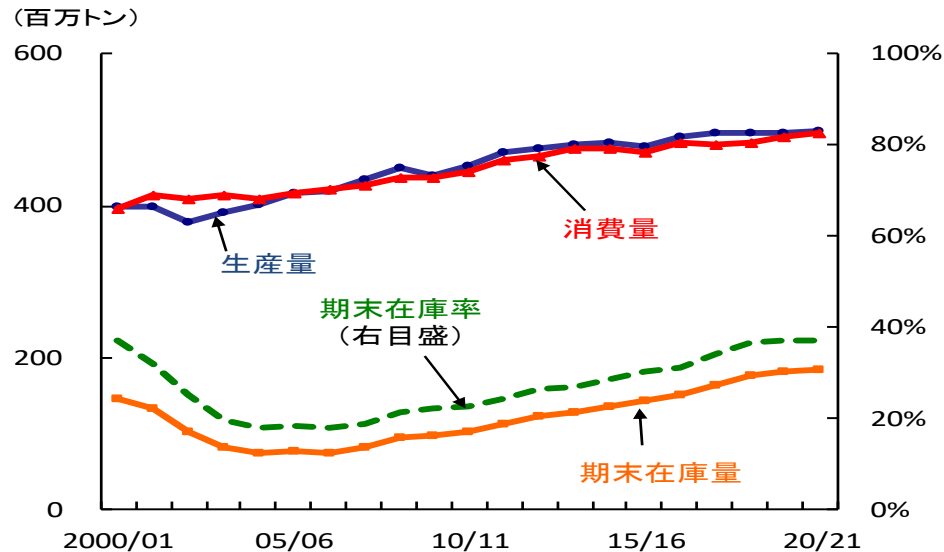
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・タイで下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・タイで下方修正も、インド等で上方修正され、前月から上方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↓



資料：USDA「PS&D」(2020.9.11)をもとに農林水産省にて作成

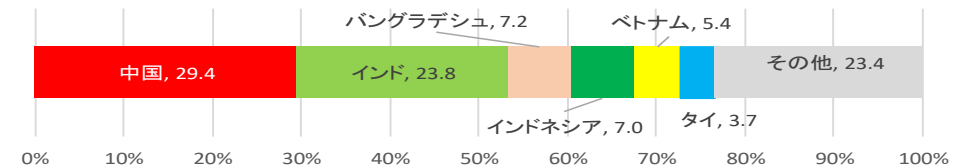
◎世界のコメ需給

(単位:百万精米トン)

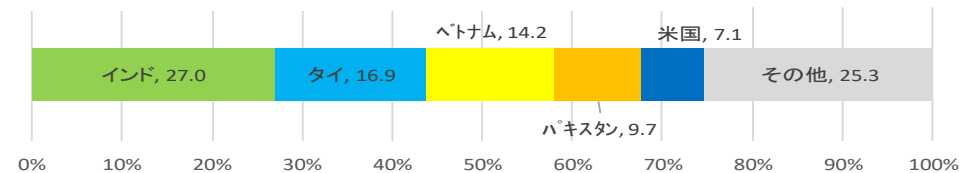
年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	496.7	495.9	499.6	▲ 0.5	0.7
消 費 量	484.0	491.1	496.4	▲ 0.1	1.1
輸 出 量	43.7	42.3	44.5	0.2	5.1
輸 入 量	43.8	40.1	42.2	0.2	5.3
期末在庫量	176.9	181.7	184.8	▲ 0.4	1.7
期末在庫率	36.5%	37.0%	37.2%	▲ 0.1	0.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(11 September 2020)

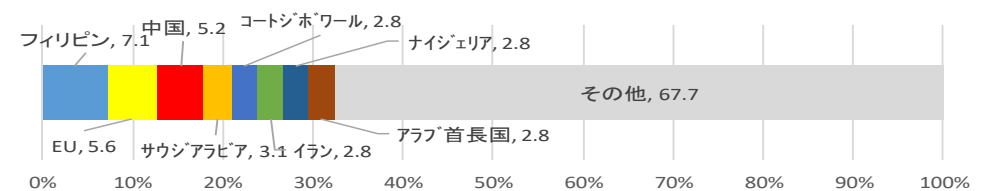
○ 2020/21年度 世界のコメの生産量（499.6百万トン）（単位：％）



○ 2020/21年度 世界のコメの輸出量(44.5百万トン)



○ 2020/21年度 世界のコメの輸入量(42.2百万トン)



（２）国別のコメの需給動向

< 米国 >

【生産動向】米国農務省（USDA）によれば、９月の作柄調査を反映し、前月予測から中・短粒種が下方修正されたが、長粒種が上方修正されたため、2020/21 年度の実産量は前月に比べ 0.2 百万トン上方修正され、対前年度比 21.8%増の 7.1 百万トンの見込み。このうち、中・短粒種の実産量は全体の約 3 割を占める。

現在、収穫が開始され、「Crop Progress」(2020.9.14)によれば、収穫進捗率は 34%(前年度同期 41%、過去 5 年平均 47%) と主にミシシッピ沿いの南部の州で遅れている。一方、カリフォルニア州の収穫進捗率は 5%と過去 5 年平均（5%）並である。

【貿易情報・その他】USDA によれば、輸出量は、供給増により前月予測から上方修正され、対前年度 5.0%増の 3.1 百万トンの見込み。一方、輸入量は、中・短粒種の輸入需要が強いので前月予測からわずかに上方修正も、対前年度 1.7%減の 1.2 百万トンの見込み。

< インド >

【生育・生産動向】USDA によれば、2020/21 年度の実産量は、前月予測から 1.0 百万トン上方修正され、対前年度 0.5%増の 119.0 百万トンの見込み。

モンスーンによる降雨に恵まれ、カリフ米の作付けがほぼ完了し、生育期を迎えている。インド農業省によれば、9 月 11 日時点の作付済面積は 40.2 百万ヘクタールと前年同期（37.4 百万ヘクタール）を 7.4%上回っている。

インド農業省によれば、2020 年 4 月からサバクトビバッタ対策として農薬散布等が実施され、コメへの目立った蝗害は殆どない。なお、8 月 25 日の調査では、どの州でもサバクトビバッタの発生は確認されていない。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2020/21 年度の輸出量は、前月予測から上方修正され、対前年度 11.1%増の 12.0 百万トンとなる見込み。インド商工省によれば、2020 年 4 月から 5 月の輸出量は 198.73 万トンで前年同期比 26%の増加。輸出量のうち、87.52 万トンが高級品質のバスマティ米で、111.12 万トンが普及米の非バスマティ米である。輸出米は、前年度対比でバスマティ米が減少する一方、非バスマティ米は増加している。

コメー米国

主に中・短粒はカリフォルニア、長粒はミシシッピ川沿いで栽培
カリフォルニア州の全米のコメ生産に占める生産シェアは約 2 割

(単位:百万精米トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	7.1	5.9	7.1	0.2	21.8
消 費 量	4.6	4.6	4.6	0.1	1.1
輸 出 量	3.0	3.0	3.1	0.1	5.0
輸 入 量	0.9	1.2	1.2	0.0	▲ 1.7
期末在庫量	1.4	0.9	1.5	0.1	60.4
期末在庫率	18.8%	12.0%	18.8%	0.4	6.8

(参考)

収穫面積(百万ha)	1.18	1.00	1.21	0.05	21.0
単収(もみt/ha)	8.62	8.38	8.44	▲ 0.08	0.7

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 September 2020)

コメーインド

雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ・ラビ(小麦)の二毛作、
南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

(単位:百万精米トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	116.5	118.4	119.0 (119.5)	1.0	0.5
消 費 量	99.2	102.1	104.0 (105.3)	-	1.8
輸 出 量	10.4	10.8	12.0 (10.9)	1.0	11.1
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	29.5	35.0	38.0 (112.2)	-	8.6
期末在庫率	26.9%	31.0%	32.8% (96.6%)	▲ 0.3	1.8

(参考)

収穫面積(百万ha)	44.16	43.78	44.50 (44.00)	0.50	1.6
単収(もみt/ha)	3.96	4.06	4.01 (2.72)	▲ 0.01	▲ 1.2

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 September 2020)
IGC「Grain Market Report (27 August 2020)」(単収は精米t/ha)

< 中国 >

【生産動向】USDAによれば、2020/21年度の生産量は、前月予測からの変更はなく147.0百万トンの見込み。

中国気象台の農業気象週報(9月4日)によれば、生育状況は、二期作早稲は収穫が終了し、二期作晩稲は湖南、江西等地区で分けつから穂孕み期、広東、広西等地区で分けつ期から節間伸長期に入っている。作柄を示す全国の二期作晩稲の一、二類苗の割合は、10%と88%で、前年同期(16%、80%)に比べ、一類は6ポイント低下、二類は8ポイント上昇。また、一期作稲は、黒竜江、吉林、遼寧等地区で出穂期から乳熟期に入っており、江蘇、浙江等地区では穂孕み期から出穂期、四川、雲南地区では出穂期から乳熟期に入っている。全国の一、二期作稲の一、二類苗の割合は、それぞれ26%と73%で、前年同期(33%、65%)に比べ、一類は7ポイント低下、二類は8ポイント上昇。

中国国家糧油情報センター(2020.9)によれば、2020/21年度の生産量は、前月予測から1.7百万トン上方修正され、211.8百万トン(粳ベース)の見込み。

そのうち、一期作早稲は、前月予測より0.6百万トン上方修正され27.3百万トン、一期作稲は、同0.5百万トン上方修正され153.1百万トン、二期作晩稲は、同0.5百万トン上方修正され31.4百万トンである。

2020/21年度の早稲の生産は、南部の深刻な洪水被害により単収が低下したものの、作付面積の増加により、前年度より3.9%増加した。作付面積の増加の要因は、①政策的に早稲生産を奨励し、農家の栽培意欲を刺激したこと、②作付時の天候が全体的に良好で栽培前期の生長が順調であったことである。単収の低下の要因は、安徽、江西、湖北、湖南地区での6月以降の豪雨と洪水による倒伏と登熟不足である。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸出货量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比11.5%増の2.9百万トンの見込み。

中国農業農村部の「農産品供需形勢分析月報」(8月)によれば、8月の早期インディカ、晩期インディカ、ジャポニカの卸売価格(精米)は、それぞれ3,700元/トン(7月3,680元/トン)、4,100元/トン(同4,080元/トン)、4,520元/トン(同4,460元/トン)。

コメー中国

北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度

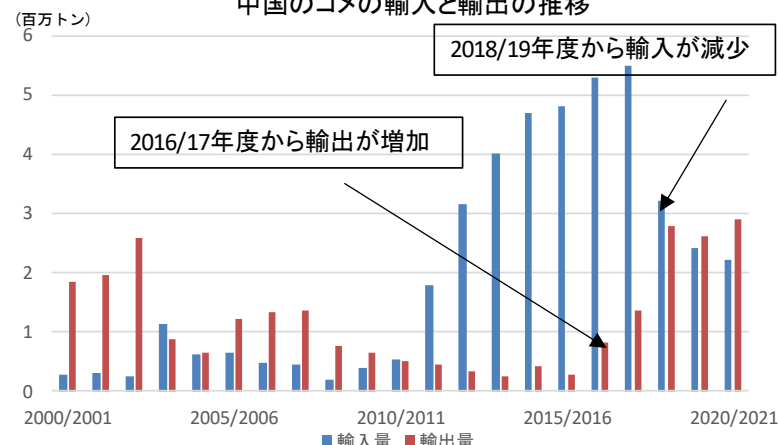
年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	148.5	146.7	147.0 (147.1)	-	0.2	
消費量	142.9	145.0	146.3 (146.2)	-	0.9	
輸 出 量	2.8	2.6	2.9 (3.2)	-	11.5	
輸 入 量	3.2	2.4	2.2 (2.3)	-	▲ 8.3	
期末在庫量	115.0	116.5	116.5 (112.2)	-	0.0	
期末在庫率	78.9%	78.9%	78.1% (75.1%)	-	▲ 0.8	

(参考)

収穫面積(百万ha)	30.19	29.69	29.80 (30.00)	-	0.4
単収(もみt/ha)	7.03	7.06	7.05 (4.90)	-	▲ 0.1

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 September 2020)
IGC「Grain Market Report (27 August 2020)」(単収は精米t/ha)

中国のコメの輸入と輸出の推移



資料: USDA「PS&D」(2020.9.11)をもとに農林水産省にて作成

※ 一類苗: 生育が正常な苗 二類苗: 通常の苗よりやや小さい苗
三類苗: 病気の苗、弱い苗

< タイ >

【生育・生産動向】

USDAによれば、2020/21年度(2021年1月～2021年12月)の生産量は、降雨不足による乾季米向けの貯水量の制約から作付面積と単収が減少し、前月予測から1.4百万トン下方修正され、18.6百万トンの見込み。

2019年と比べて、7月下旬までに降雨があったため、干ばつであった前年度と比べ、北東部で雨季米の作付けが進展した。タイ中央部に集中していた登熟期は、9月中旬、北東部及び南部に拡大し、全国的に収穫期を迎えようとしている。

また、2019/20年度(2020年1月～2020年12月)の生産量は、前月予測から0.3百万トン上方修正され、17.7百万トンと前年度(2018/19)を12.3%下回る見込み。干ばつの影響で、乾季米の収穫面積と単収が収穫前の予測以上に減少した。

タイ農業・協同組合省によれば、7月時点の生産量は、降雨予測から、雨季作の生産量が4月時点(24.9百万トン)から上方修正され、25.2百万トン、乾季作は変わらず4.1百万トンで、計29.3百万トン(粳ベース)の見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、価格競争力が弱く、生産量も減少したため、前月予測から1.0百万トン下方修正され、7.5百万トンの見込み。

タイ米輸出協会によれば、7月の輸出量はアフリカ南部諸国への白米が増加したため、前年同月に比べ31.6%の増加となった。白米の増加要因は、インド等の他のコメ輸出国が新型コロナウイルス感染拡大の影響でコメ輸出が滞ったため。

2020年1月から7月までの輸出量は、前年度から32.9%減少の329.5万トン。輸出先国は、米国(42.8万トン)、南アフリカ(32.6万トン)、アンゴラ(25.0万トン)の順で、米国等への輸出量が増加している。

なお、品種別のコメ輸出先は、白米がアンゴラ、カメルーン、モザンビーク、ベナンであり、香り米は米国、中国、カナダ、シンガポールである。香り米は輸出量が減少している。

コメ・タイ

夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカを栽培

(単位:百万精米トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	20.3	17.7	18.6	(20.0)	▲ 1.4	5.3
消費量	11.5	11.5	11.5	(11.7)	▲ 0.3	-
輸出量	7.6	6.5	7.5	(8.7)	▲ 1.0	15.4
輸入量	0.3	0.3	0.2	(0.3)	-	▲ 20.0
期末在庫量	4.5	4.4	4.2	(4.6)	▲ 0.1	▲ 4.5
期末在庫率	23.8%	24.7%	22.3%	(22.5%)	0.7	▲ 2.4
(参考)						
収穫面積(百万ha)	10.83	9.89	10.30	(10.73)	▲ 0.50	4.1
単収(もみt/ha)	2.85	2.70	2.74	(1.86)	▲ 0.07	1.5

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」 (11 September 2020)
IGC 「Grain Market Report (27 August 2020)」 (単収は精米t/ha)

表 タイの米輸出先国(シェア)

	2020年1月～2020年7月			対前年比 (%)
	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)	
1	米国	42.8	13.0	31.0
2	南アフリカ	32.6	9.9	-18.6
3	アンゴラ	25.0	7.6	-0.1
4	日本	15.8	4.8	10.7
5	カメルーン	15.2	4.6	-47.8
6	中国	13.8	4.2	-45.4
7	その他	184.3	55.9	-43.2
計		329.5	100.0	-32.9

資料: タイ米輸出業者協会(2020.8.28)をもとに農林水産省で作成

コメベトナム

<ベトナム>

【生育・生産動向】USDAによれば、2020/21年度(2021年1月～2021年12月)の生産量は、前月予測からの変更はなく、27.0百万トンの見込み。

現在生産が行われている2019/20年度(2020年1月～2020年12月)の生産予測は、前月からの変更はなく、27.0百万トンの見込み。

ベトナム農業農村開発省によれば、8月下旬から9月上旬にかけて、ベトナム北部の紅河デルタで雨季作が幼穂分化期から穂ばらみ期を迎えている。

また、同南部のメコンデルタで、夏秋作が収穫期を迎えており、収穫進捗率は70.1%となっている。同作の単収は良好で、前年度を0.08トン/ヘクタール上回る5.53トン/ヘクタールとなるものの、干ばつと塩害により前年度よりも作付面積が減少し、生産量は前年度を下回る見込み。また、秋冬作の生産も行われており、26.3%が幼穂分化期から出穂期、31.7%が登熟期に入っている。本年度は、塩害により前年度に比べ播種の進行が遅れた。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、前月予測からの変更なく6.3百万トンの見込み。また、2019/20年度の輸出量も、前月予測からの変更はなく、6.6百万トンの見込み。

ベトナム税関総局によれば、2020年1月から8月までの国別のコメの累計輸出量は、2019年同時期と比較して0.6%増とほぼ同水準になっている。輸出先国別にみると、フィリピンが最も多く、輸出量全体の37.3%を占めている。また、同期間で大幅な輸出量増となったのは、中国（前年同期比54.3%増）、ガーナ（同45.2%増）、モザンビーク（同52.6%増）、インドネシア（同32.5%増）などである。

農産物加工・市場開発局の発表によれば、2020年1月から7月までの輸出米の内訳は、輸出額ベースで、白米が45.2%、ジャスミン米等の香り米は36.6%、もち米は13.7%、ジャポニカ米は4.5%。

米の主な輸出先は、白米がフィリピン、マレーシア、キューバ等であり、ジャスミン米等の香り米が、フィリピン、ガーナ、コートジボワール等、もち米が中国、マレーシア、フィリピン等である。また、ジャポニカ米は、キリバス、ソロモン諸島、中国等である。

北部で二期作、南部で二期作、三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽

(単位:百万精米トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	27.3	27.2	27.0 (28.4)	-	▲ 0.6
消 費 量	21.2	21.1	21.2 (22.2)	-	0.5
輸 出 量	6.6	6.6	6.3 (6.6)	-	▲ 4.5
輸 入 量	0.5	0.4	0.4 (0.4)	-	-
期末在庫量	1.1	1.0	0.9 (2.6)	-	▲ 10.5
期末在庫率	4.0%	3.4%	3.1% (8.9%)	-	▲ 0.3

(参考)

収穫面積(百万ha)	7.54	7.47	7.40 (7.47)	-	▲ 0.9
単収(もみt/ha)	5.80	5.82	5.84 (3.81)	-	0.3

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 September 2020)
IGC「Grain Market Report (27 August 2020)」(単収は精米t/ha)

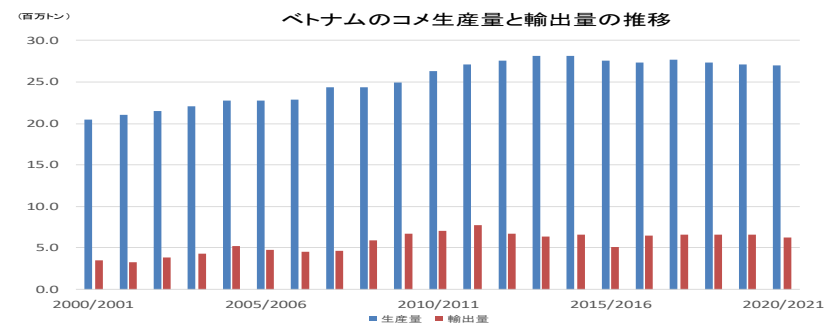


表 ベトナムの米輸出先国(シェア)

	2020年1月～2020年8月			対前年比 (%)
	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)	
1	フィリピン	171.8	37.3	-2.4
2	中国	53.6	11.6	54.3
3	マレーシア	45.0	9.8	9.0
4	ガーナ	35.9	7.8	45.2
5	コートジボワール	34.4	7.5	-3.3
6	イラク	9.0	2.0	-66.7
7	その他	110.8	24.1	16.7
	計	460.6	100.0	0.6

資料: ベトナム税関総局をもとに農林水産省で作成

Ⅱ 油糧種子 大豆

(1) 国際的な大豆需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2020/21 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・ブラジル等で上方修正も、米国等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

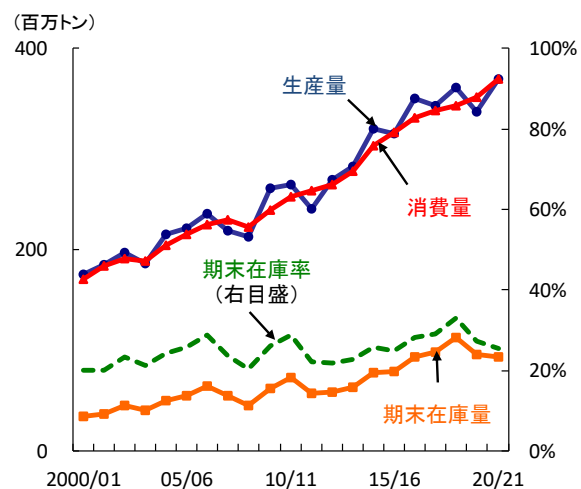
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・アルゼンチン等で下方修正も、ブラジル等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・ブラジル等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↓



資料：USDA「PS&D」（2020.9.11）をもとに農林水産省で作成。

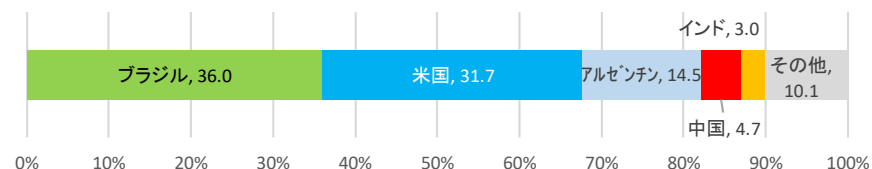
◎ 世界の大豆需給

（単位：百万トン）

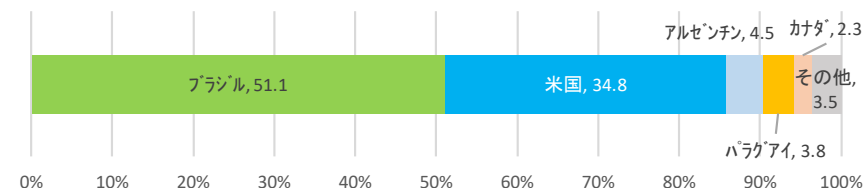
年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	361.1	337.3	369.7	▲ 0.7	9.6
消費量	343.4	352.0	369.1	1.2	4.9
うち搾油用	297.8	307.8	320.8	0.7	4.2
輸出量	148.4	165.9	166.3	0.8	0.3
輸入量	145.1	163.5	163.3	0.8	▲ 0.2
期末在庫量	113.1	96.0	93.6	▲ 1.8	▲ 2.5
期末在庫率	32.9%	27.3%	25.4%	▲ 0.6	▲ 1.9

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」（11 September 2020）

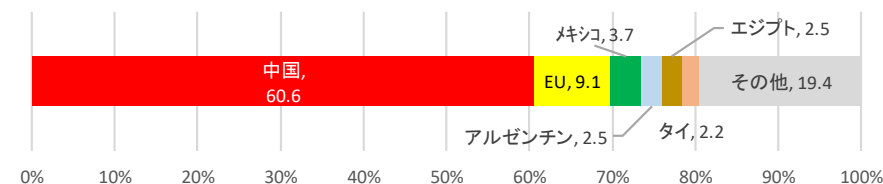
○ 2020/21 年度の世界の大豆の生産量 (369.7 百万トン) (単位：%)



○ 2020/21 年度の世界の大豆の輸出量 (166.3 百万トン)



○ 2020/21 年度の世界の大豆の輸入量 (163.3 百万トン)



(2) 国別の大豆の需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】米国農務省（USDA）によれば、2020/21 年度の実産量は、8 月の中西部の乾燥天候や8月中旬に発生した暴風雨（Derecho）の影響を受け、前月予測から 3.0 百万トン下方修正されたものの、前年度より 21.4%増の 117.4 百万トンの見込み。「Crop Progress」（2020.9.14）によれば、9 月 13 日現在で主要 18 州における落葉率は 37%と、過去 5 年平均（31%）及び前年度同期（13%）より進んでいる。また、作柄評価は、良からやや良が 63%と前年度同期（54%）を上回っている。

【需要動向】USDA によれば、2020/21 年度の実消費量は、前月から 0.1 百万トン下方修正され、前年度より 4.3%増の 63.1 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】2020/21 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 26.5%増の 57.8 百万トンの見込み。輸出検証高（2020 年 1 月 2 日～9 月 3 日）は、22.9 百万トンであり、内訳は中国（6.8 百万トン）、メキシコ（2.9 百万トン）の順。

大豆－米国

(単位:百万トン)

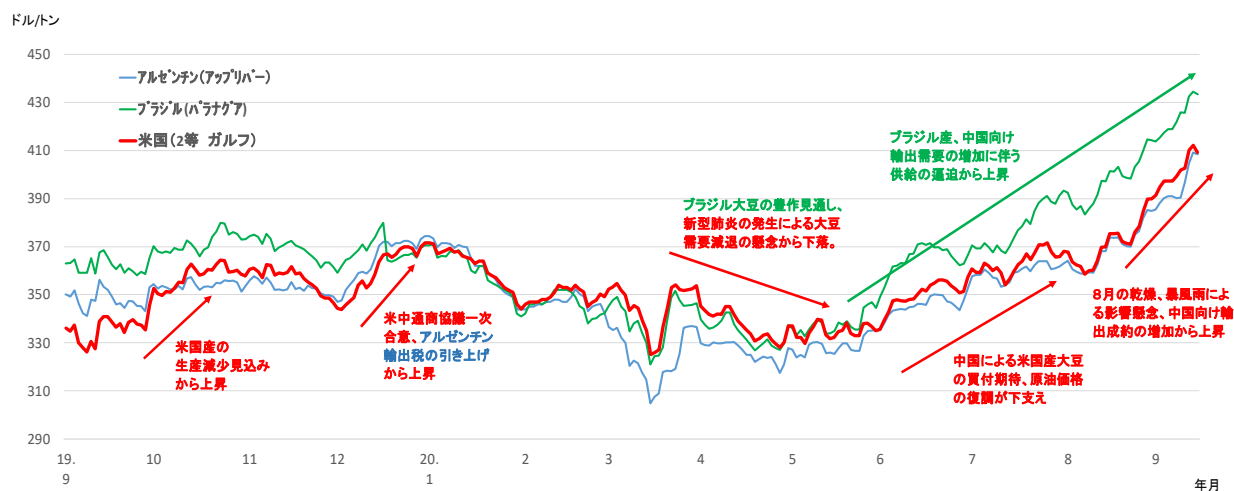
年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	120.5	96.7	117.4	▲ 3.0	21.4
消 費 量	60.4	60.5	63.1	▲ 0.1	4.3
うち搾油用	56.9	59.1	59.3	-	0.5
輸 出 量	47.7	45.7	57.8	-	26.5
輸 入 量	0.4	0.4	0.4	-	▲ 6.8
期末在庫量	24.7	15.6	12.5	▲ 4.1	▲ 19.9
期末在庫率	22.9%	14.7%	10.4%	▲ 3.4	▲ 4.4

(参考)

収穫面積(百万ha)	35.45	30.33	33.60	-	10.8
単収(t/ha)	3.40	3.19	3.49	▲ 0.09	9.4

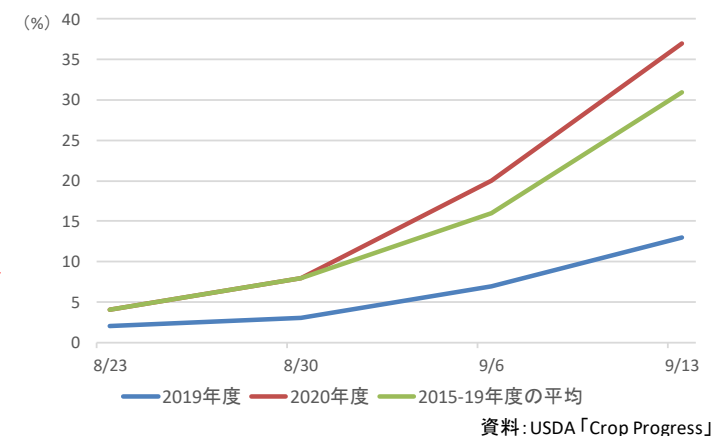
資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (11 September 2020)

図：米国、ブラジル、アルゼンチン大豆輸出価格（FOB）の推移



資料: IGCのデータをもとに農林水産省にて作成。

図：主要 18 州における落葉率の推移



資料: USDA 「Crop Progress」

< ブラジル >

【生育・生産状況】USDA によれば、2020/21 年度の生産量は、最近の価格上昇を受けた作付けの拡大見込みにより前月から 2.0 百万トン上方修正され、前年度より 5.6%増の 133.0 百万トンとなり、史上最高の見込み。9 月中旬現在、中西部から北東部にかけての主産地では高温・乾燥天候となっており、降雨を待ってから作付けが開始される。

【需給状況】USDA によれば、2020/21 年度の消費量は、中国向け食肉輸出のための飼料需要の高まりにより前月から 0.9 百万トン上方修正され、前年度より 3.5%増の 48.2 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2020/21 年度の輸出量は、中国の輸入需要増により前月から 1.0 百万トン上方修正されたものの、期首在庫の減少による供給量の制約から史上最大の輸出となった前年度より 9.1%減の 85.0 百万トンの見込み。なお、世界の大豆輸出量の約半分を占め、世界第 1 位の輸出国を維持する見込み。

ブラジル貿易統計によれば、3 月以降中国向け輸出が急増しており、2020 年 1～8 月の輸出量は 75.1 百万トンで、前年同期比 1.3 倍となっている。内訳は、1 位が中国で 54.4 百万トンと全体の 72%を占めている。ブラジル食料供給公社（Conab）によれば、2019/20 年産の輸出余力は残りわずかである。

ブラジルのクロープカレンダー（中部から南部）

2019/20 年度の大豆の収穫は 2 月以降収穫が行われ、その後、一部圃場で冬とうもろこしを栽培。

2019/20 年度	2019 年												2020 年								
	1 月	...	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9			
夏とうもろこし	リオグランデ・ド・スル州等												作付 4.2 (百万 ha)								
冬とうもろこし	作付面積夏冬計 18.5 百万 ha												作付 14.3 (百万 ha)								
大豆	マトグロソ州、パラナ州等												作付 36.9 (百万 ha)								
													収穫 25.7 (百万 t)								
													収穫 76.8 (百万 t)								
													収穫 124.8 (百万 t)								

資料: Conab 穀物レポート (2020.9.10)

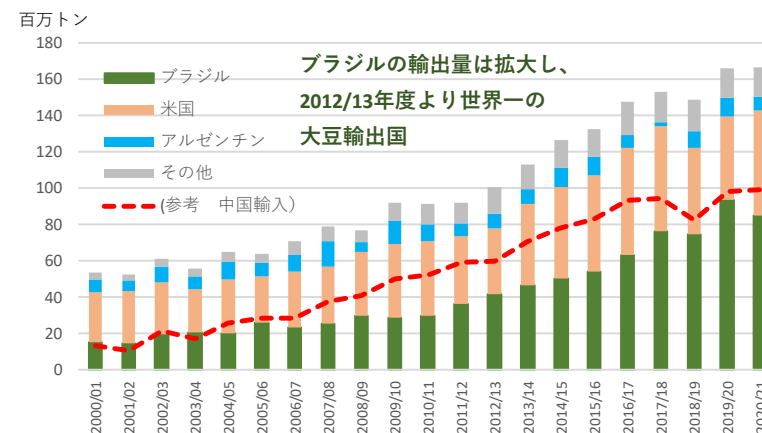
大豆—ブラジル

(単位: 百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	119.7	126.0	133.0 (132.5)	2.0	5.6
消 費 量	45.2	46.5	48.2 (…)	0.9	3.5
うち搾油用	42.5	44.3	45.5 (…)	0.5	2.8
輸 出 量	74.6	93.5	85.0 (…)	1.0	▲ 9.1
輸 入 量	0.1	0.7	0.4 (…)	0.3	▲ 40.3
期末在庫量	32.8	19.4	19.7 (…)	0.7	1.3
期末在庫率	27.4%	13.9%	14.8% (…)	0.3	0.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	35.90	36.90	38.60 (40.40)	0.30	4.6
単収(t/ha)	3.33	3.41	3.45 (3.28)	0.03	1.2

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 September 2020)
OIL WORLD 「OIL WORLD Monthly」(11 September 2020)

図：世界の大豆輸出国の輸出量の推移



資料: USDA 「PS&D」(2020.9.11) のデータをもとに農林水産省にて作成。

< アルゼンチン >

【生育・生産状況】USDAによれば、2020/21年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より7.6%増の53.5百万トンの見込み。11月以降に作付けが開始される。

【需給状況】USDAによれば、2020/21年度の消費量は、搾油用需要が前月から1.0百万トン下方修正されたものの、前年度より5.6%増の49.2百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、国内の搾油量の増加に加え、中国向け輸出における米国、ブラジルとの競争から、前年度より26.8%減の7.5百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、4月以降、中国向け輸出が急増しており、2020年1～7月の輸出量は5.4百万トンで、前年同期より27%増。内訳は、1位が中国4.3百万トン、2位がエジプト53万トンとなっている。

アルゼンチンは、バイオディーゼル用大豆の搾油を行うため、大豆輸出量よりも、搾油後に発生する大豆加工品の輸出が多く、大豆粕については、世界第1位の輸出国である。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019年12月から2020年3月にかけて、2段階で、大豆、大豆油、大豆粕の輸出税を約25%から30%、さらに最大33%へ引き上げた。なお、生産規模ごとに税率が20～33%と細分化され、年間1,000トンを超える生産者は33%課税されることとなった。

大豆－アルゼンチン

(単位:百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21			
			予測値、()はOil.W		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	55.3	49.7	53.5	(51.5)	-	7.6
消費量	47.5	46.6	49.2	(...)	▲ 1.0	5.6
うち搾油用	40.6	39.5	42.0	(...)	▲ 1.0	6.3
輸出量	9.1	10.3	7.5	(...)	-	▲ 26.8
輸入量	6.4	4.7	4.0	(...)	-	▲ 14.0
期末在庫量	28.9	26.4	27.2	(...)	1.7	3.0
期末在庫率	51.1%	46.4%	48.0%	(...)	3.8	1.5
(参考)						
収穫面積(百万ha)	16.60	16.90	17.30	(16.50)	-	2.4
単収(t/ha)	3.33	2.94	3.09	(3.12)	-	5.1

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
「World Agricultural Production」 (11 September 2020)
OIL WORLD 「OIL WORLD Monthly」 (11 September 2020)

写真：北部サンタフェ州の圃場における
大豆保管サイロバッグ
(8月27日撮影)



< 中国 >

【生産・生育状況】USDAによれば、2020/21年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より3.3%減の17.5百万トンの見込み。なお、中国糧油情報センター（2020.9.4）によれば、8月の産地の東北部の天候は適度な降雨に恵まれ、比較的良好で、大豆の成熟に有利となった。9月上旬現在、東北部では着莢～子実肥大期に入っている。

【需給動向】USDAによれば、2020/21年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、ASFの甚大な影響から回復し、養豚数の増加により大豆粕需要が高まることから、前年度より7.6%増の116.4百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、養豚産業の大豆粕需要の高まりにより前年度より1.0%増の99.0百万トンの見込み。

中国財政部は、2月14日に、米中通商協議一次合意に伴い、米国産大豆の追加関税30%のうち、2019年9月追加分の5%分を半減させ、追加関税を27.5%まで引き下げた。さらに、財政部は、2月18日、1年間の期限付きで、輸入業者に対して、米国産大豆を始め豚肉、牛肉等の米国産品に関し、追加関税の免除手続きを公表した。

中国の貿易統計によれば、2020年1～7月の輸入量は55.1百万トンと、前年同期比で18%増。内訳は、ブラジル産40.7百万トン（74%）、米国産9.3百万トン（17%）。なお、7月の輸入量は、ブラジル産（8.2百万トン）が米国産（4万トン）をさらに大きく引き離れた。今後、米国産大豆の収穫開始に伴い、輸入先が徐々に米国産に切り替わるとみられる。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報8月号」によると、南方の早生大豆が市場に供給され、備蓄大豆も持続的に競売される中、国産大豆需要は旺盛ではなく、8月の国内価格（山東省の国産大豆工場渡し価格）は小幅に下落したが、5,740元／トンで依然高水準である。一方、8月の国際価格（山東省の輸入大豆価格）は3,300元／トンと前月から2%上昇している。

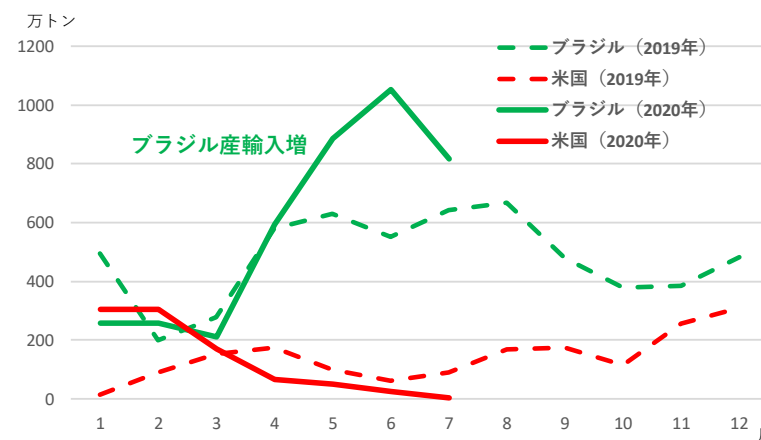
大豆－中国

（単位：百万トン）

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、OはOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	16.0	18.1	17.5 (17.7)	-	▲ 3.3
消費量	102.0	108.2	116.4 (…)	-	7.6
うち搾油用	85.0	90.5	98.0 (…)	-	8.3
輸 出 量	0.1	0.1	0.1 (…)	-	-
輸 入 量	82.5	98.0	99.0 (…)	-	1.0
期末在庫量	19.5	27.3	27.3 (…)	-	-
期末在庫率	19.1%	25.2%	23.4% (…)	-	▲ 1.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	8.41	9.30	9.30 (9.40)	-	-
単収(t/ha)	1.90	1.95	1.88 (1.88)	-	▲ 3.6

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 September 2020)
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly」(11 September 2020)

図：中国におけるブラジル・米国産大豆の輸入状況



出典：中国海関統計

注：2020年1月分と2月分は合計で公表されたため、便宜上1/2で按分した。

< カナダ >

【生育・生産状況】USDAによれば、2020/21年度の生産量は、主産地のオンタリオ州南部で良好な作柄のため前月から0.2百万トン上方修正されたものの、収穫面積の減少から前年度より0.7%減の6.0百万トンの見込み。

なお、カナダ統計局「Model-based principal field crop estimates August 31, 2020」(2020.9.14)によれば、前年度より収穫面積が減少もケベック州等で単収が大幅に増加することから、生産量は前年度から1.5%増の6.1百万トンの見込み。産地のマニトバ州クロップレポート(2020.9.15)によれば、収穫率は2%で過去3年平均23%に比べ遅れているものの、収穫に適した概ね乾燥天候となっている。

【需給状況】USDAによれば、2020/21年度の消費量は、生産量の上方修正に伴い、前月から0.2百万トン上方修正され、前年度より0.2%増の2.7百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度より1.4%減の3.9百万トンの見込み。

大豆－カナダ

(単位:百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	7.4	6.0	6.0 (6.2)	0.2	▲ 0.7
消 費 量	3.1	2.7	2.7 (2.5)	0.2	0.2
うち搾油用	2.1	1.8	1.8 (1.9)	-	-
輸 出 量	5.3	3.9	3.9 (4.2)	-	▲ 1.4
輸 入 量	1.2	0.3	0.6 (0.4)	-	109.1
期末在庫量	0.9	0.6	0.6 (0.4)	0.2	-
期末在庫率	10.2%	8.4%	8.5% (6.0%)	2.2	0.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	2.54	2.27	2.00 (2.05)	▲ 0.04	▲ 11.9
単収(t/ha)	2.92	2.66	3.00 (3.04)	0.16	12.8

資料:USDA「PS&D」

「World Agricultural Production」(11 September 2020)

AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(24 September 2020)

写真：マニトバ州の大豆の生育状況

(9月9日撮影)

生育は順調で、収穫間近となっている。



(参考)本レポートに使用されている各国の穀物年度について (2020/21年度)

	小麦	とうもろこし	コメ	大豆
米国	20年6月～21年5月	20年9月～21年8月	20年8月～21年7月	20年9月～21年8月
カナダ	20年8月～21年7月			20年8月～21年7月
豪州	20年10月～21年9月		21年3月～22年2月	
EU	20年7月～21年6月	20年10月～21年9月		
中国	20年7月～21年6月	20年10月～21年9月	20年7月～21年6月	20年10月～21年9月
ロシア	20年7月～21年6月	20年10月～21年9月		20年9月～21年8月
ブラジル		21年3月～22年2月	21年4月～22年3月	20年10月～21年9月
アルゼンチン	20年12月～21年11月	21年3月～22年2月		20年10月～21年9月
タイ			21年1月～12月	
インド	20年4月～21年3月		20年10月～21年9月	
ベトナム			21年1月～12月	

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。

例えば、2020/21年度は、米国の小麦では2020年6月～2021年5月、ブラジルのとうもろこしでは2021年3月～2022年2月です。

なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads> (「Reference Data」タブを参照)

【利用上の注意】

海外食料需給レポートは、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関（各国政府機関、FAO、IGC等）の公表資料、Oil World 等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

- **海外食料需給レポートで使用している統計数値は、主に米国農務省が 2020 年 9 月下旬までに発表した情報を引用しています。**

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY_REPORTS

主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/grain-world-markets-and-trade>

「Oilseeds : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/oilseeds-world-markets-and-trade>

「World Agricultural Production」

<https://www.fas.usda.gov/data/world-agricultural-production>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

など

- **データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されますので留意してください。**
- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。
- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場等の換算レートを用いています。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>

(注：同サイトの「Reference Data」を参照)

- 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。
- 本資料の引用等につきましては、出所（農林水産省発行「海外食料需給レポート」）を併記願います。
- 本文中の略称については以下のとおりです。

FAO	国連食糧農業機関
IGC	国際穀物理事会
USDA	米国農務省
AAFC	カナダ農務農産食品省
ABARES	豪州農業資源経済科学局
CONAB	ブラジル食料供給公社
JAXA	宇宙航空研究開発機構

なお、生産見通し等の予測は、各国国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。

英国については、2020年1月31日付けでEUを離脱しました。英国の小麦に関する情報についてはEUの小麦のコーナーで取り扱います。

- 本レポートの電子版は下記アドレスでご覧になれます。

農林水産省 海外食料需給レポート

http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html

- 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

連絡先	農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室 TEL：03-6744-2368（直通）
------------	---